

# 人をつなぐ・地域をつむぐ

## — はばたく円山 一人ひとりが主人公 —

円山公民館

### 1 円山地区の概要

福井市の東部に位置し、地区の西側には国道8号線、東側には北陸自動車道が走り、東西に県道吉野・福井線（通称さくら通り）が縦断する交通の便が極めて良い地区である。



【円山地区の東部に広がる田園風景】

古来よりこの地区を育み支えてきたのは、荒川とその周辺に広がる水田である。土地の高低が殆ど

ない肥沃な水田地帯であり、地区の東部には今もなお広大で美しい田園風景が残されている。

地区の総面積は3.37平方キロメートルで、近年、西部では市街地化が急速に進んでいる。市街部の利便性と農村部の豊かな自然が調和融合された望ましい環境を保っている。

平成28年4月現在の世帯数は3,000戸を超え、人口は8,200余人を数えるまでになってきており、増加が著しい。

### 2 つながるまちづくり

#### (1) まちづくり事業の経過

円山地区では、創造的で魅力あるまちづくりを推進するために、「歴史継承事業」や「安心・安全事業」等について、公民館運営審議委員会を中心に委員会を立ち上げて展開してきた。継続的に推進していくためにはきちんとした組織が必要であるということになり、平成22年には、「円山地区まちづくり協議会」を設立し、住民主体のまちづくりに取り組んでいる。

#### ○「則武三雄記念文学コーナー」の開設（平成9年）

「うらがまちづくり推進事業」では郷土の詩人「則

武三雄（のりたけかずお）」の著書・資料・遺稿を集めた「則武三雄記念文学コーナー」を公民館内に開設した。平成27年に新公民館が完成し、正面玄関に、新たにそのスペースが設けられている。

則武三雄氏は鳥取県米子市に生まれ、三好達治を師と仰ぎ、終戦後、彼の誘いを受けて来福した。

その後、福井市北四ツ居町に居を構え、81歳の生涯を終えた。その間、広部英一氏・荒川洋治氏・川上明日夫氏などを、全国的に著名な文人に育てあげた。

平成28年度は、福井学推進事業「ふるさと学級『則武三雄を語り継ぐ』」の中で、則武三雄氏にゆかりのある方々を講師に招いて、4回シリーズの講座を開催する。

#### ○「円山コミュニティスクール（放課後子ども教室）」の開設（平成14年）

平成13～15年度の「わがまち夢プラン事業」では、週休2日の子どもの居場所づくりに取り組んだ。

円山小学校の北校舎を地域で管理

運営し、土曜日に地域が運営する「円山コミュニティスクール（放課後子ども教室）」が平成14年に開設された。

それ以後14年が経過したが、平成27年度は年間45回開催し、講師は地区の人が務め、延べ1,700名の子どもたちが参加している。

#### (2) まちづくり事業の方向性

— 「夢ある円山の創出」に向けて —

より継続的で発展的なまちづくりを推進するために平成22年に「円山地区まちづくり協議会」を立ち上げ、今年で7年目に入った。



【小学生と高齢者との交流も活発】

「まちづくり」とは、防災訓練やまつり等の行事を実施していくことではなく、地域課題を明確にしてそれに基づいた話し合いの場を持ち、ビジョンを立てて事業に取り組むことである。こうした話し合いを通して結束が生まれ、以前に比べて地区内の風通しが良くなってきている。

### ○「円山広報委員会」の立ち上げ

地域住民の一人一人が気軽に意見を言え、より多くの人の顔を見ることのできる手立てとして、平成24年1月より広報誌「えんざん」を発刊している。

その都度テーマを設定し、様々な年代層が語り合う「住民座談会」が特徴であり、元気な仲間を紹介するコーナー、地域の歴史を分かりやすく紹介するページなど、広報誌というツールで“人をつなぐ・地域をつむぐ”工夫に取り組んできた。これらの地道な努力が実を結び、平成26年に全国公民館報コンクールでみごと最優秀賞を受賞した。

発刊の目的でもある「この地の歴史と文化を伝え、自分の住む地域をより良くしていきたいと願う心を育む」という原点に戻り、広報誌「えんざん」を媒体にして、さらに地域の課題の掘り起こしと人づくりに繋げていきたい。

### ○「支え合い体制づくりマニュアル」の作成と実践



【100人以上が参加した研修会】

近年、地域のつながりの希薄化による高齢者の孤立や日常生活の不安が増加している。

そこで、ひとり暮らしの不安を少しでも軽くし、安心・安全で住みよい地域づくりをめざしたいというねらいから、平成26年には「地域支え合い体制づくり」に着手した。

まず、実態調査を実施したり、支え合いマップ作りのワークショップを開催したりした。また、ワーキンググループを作り、支え合い体制のマニュアルを作成した。

平成28年にはまちづくり事業の中に「支え合い体制」の柱ができ、今後は自治会を巻き込んで展開していく予定である。

## 3 拠点となる公民館をめざして

### (1) カフェコーナー

地域住民が気軽に立ち寄り、交流の場になるように、平成28年よりカフェコーナーを設けた。テラスにはテーブルも設置



【テラスのカフェコーナー】

され、憩いの場・集いの場として活用されている。

### (2) 男の料理教室

定年後の男性が気軽に公民館に出入りするきっかけづくりとして、平成27年より「男の料理教室」を開催している。

これらの取り組みにより、一人一人が主人公となるまちづくりに関心をもってもらい、その輪が少しずつ広がるように努めている。



【楽しんで作る料理の味は格別！】

## 4 終わりに

円山公民館では、福井市のプータンをめざし、住民の住民による住民のための地域づくりを行っている。安心・安全なまちづくりとして防災組織の強化と支え合いの組織づくりが二大テーマである。

更にコミュニティとして地域の一体化を進め、公民館は日本の毛細血管として機能していくつもりである。本公民館は、子どもから高齢者まで誰もが出入りする公民館をめざしていきたい。

円山地区のまちづくり事業は、地域力を高める総合的な活動であり、熱い連帯意識と温かい触れ合いが感じられます。目標を掲げ、広報誌を活用したり話し合う場を設定したりして、工夫していることに感心します。今後、「支え合う社会」の実現に向けて、模範となる体制づくりに取り組んでほしいと願っています。